



KAHF ニュースレター

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2-2 京都市国際交流会館3階

財団法人 京都国際文化協会内

京都ホストファミリー協会 (KAHF)

No. 14

2015年 3月発行

2015年度 行事予定

4月19日(日)

・ウェルカムパーティー

(吉田南キャンパス生協1F)

5月

・ハイキング(予定)

7月

・祇園祭

10月

・大原バーベキュー(予定)

2016年

1月12日(日)

・新春親睦パーティー・バザー

(京都市国際交流会館イベントホール)

3月

・総会7年ミートの集い

KAHFは1984年の設立であり、今年が31年目になります。申し込んできた留学生にはそれぞれ特定のホストファミリー(HF)が決められ、言わば日本におけるお父さん、お母さんとして食事に招いたり、一緒に外出したり、活動したりしています。この1:1の親密な交流がKAHFの中心です。勿論、一つのHFが複数の留学生と交流することはありますが、あくまで1:1の関係が基本となります。なお、HFは留学生に宿を提供する所謂ホームステイではありません。本年度は47名の留学生を受け入れました。

留学生にとってHFは通常お父さん、お母さん、またはそれ以上の年齢であり、その交流もおのずから限られたものになります。同世代の日本人との交流も望んでいますが、案外浅い交流しかありません。日本人の学生にとっても世界中からやってきている留学生は、国際感覚に触れる、国際的視野を身に着けるまたとない対象なのに、一部の学生を除いてあまり付き合いがないのが現状です。この観点から、留学生を日本人の学生と結びつけるために、2013年度から Brother/Sister (B/S) プロジェクトを始めました。これは希望する留学生に日本人学生等を紹介し、中身の濃い、いわば兄弟・姉妹のような関係を期待するものです。ここでもKAHFの1:1の精神を基礎としています。ここで育まれた中身の濃い交流が、お互いにとってよい経験となり、場合によっては卒業、帰国後も続き、世界の相互理解、人種融和の中心になることを期待しております。これはKAHFの新しい進展であると考えます。現在までに総勢37名の日本人学生等のB/S会員の参加を得て、留学生とのマッチングを致しました。また、B/S会員には、

KAHF全体の行事への参加や新たな行事の企画なども期待しています。このプロジェクトの成功によって、KAHFの活動が今までより巾広いものになることを期待しています。

世話人代表 谷垣昌敬

平素、KAHFの活動にご尽力頂き、有難うございます。お陰様で、2014年度もいろいろな行事や個々の付き合いを通して、留学生との交流を深めることができました。今年度の活動をまとめたニュースレターを作成しましたので、どうぞお受け取り下さい。なお、ニュースレターはホームページでもご覧いただけます。またフェイスブックも立ち上げました。行事予告などはホームページやフェイスブックでも行っています。

ホームページURL: <http://kahf.web.fc2.com/>

フェイスブック グループ名: KAHF (Kyoto Association of Host Families)

2014年度会務報告

2014年度に47名の新しい留学生（No. 1795～1841）を受け入れて、HFとB/S会員（一部）をマッチングしました。詳しくは別紙資料をご覧ください。

2014年度に新たに4名のHF会員の入会がありました（HF-457～460）。よろしくお願いたします。また、10名の会員が退会されました。これまでの会員としてのご協力に感謝します。この結果、現在活動中のHF会員は120ファミリーとなりました。詳しくは別紙資料をご覧ください。

2013年度に、日本人学生等を Brother/Sister として希望する留学生にマッチングする新しいプロジェクトを立ち上げました。現在までに総勢38名のB/S会員の参加を得て、留学生とのマッチングを致しました。これが新しいホストファミリーの形として今後発展することを期待します。

2014年度の共通行事として、

- ・ファミリー総会（レストラン レイナ デ レイナ、2014.3.15）
- ・ウェルカムパーティー（2014.4.20、京都大学生協吉田食堂）
- ・春のハイキング（2014.5.18、大文字登山）
- ・ハイキング（2014.6.1、鞍馬山）
- ・料理教室（2014.6.7、ウィングス京都2F調理コーナー）
- ・友禅染と二条城観光（2014.7.6）
- ・祇園祭船鉾参観とゆかた着付け教室（2014.7.14）
- ・大原バーベキューパーティー（2014.11.24、龍池財団大原郊外学舎）
- ・新春親睦パーティー・バザー（2015.1.11、京都市国際交流会館）
- ・ハイキング（2015.1.18、將軍塚）
- ・KAHF30周年風揚げ大会（2015.3.8、出町デルタ）

を催しました。留学生とファミリー、ファミリー間、留学生間の和気あいの交流ができた楽しい行事でした。

行事報告

2013年度 総会・ファミリーの集い 2014.3.15（土）12:00 - 15:00

今年度の総会・ファミリーの集いは岡崎のメキシカンレストラン「レイナ・デ・レイナ」で開催しました。参加は33名でした。H24年度の会務報告および会計報告（谷垣代表）の後、昼食をとり、その後、天龍寺の開山堂である臨川寺のトーマス・カーシュナー（日本名：釈雄峰）様からの話題提供（雲水生活について）をいただきました。若いころから日本、特に仏教に強い興味を持っておられ、早稲田大学に留学以来京都で仏門を続けておられる先生の考え方、行動に感銘を受けました。留学生との交流をしている私達にも示唆に富むお話しでした。お話の後、ティータイムということで活発な議論の中、あっという間に閉会の時間を迎えました。



2014年 春

ケーキ・パーティー 2014.4.20（日）14:00 - 16:00

会場：京都大学吉田南キャンパス・生協吉田食堂1F、参加者：ファミリー、留学生、B/S学生、計100名以上。

今年のケーキ・パーティーは他の行事と重なった事もあり少々参加者が少なめでした。70人分のサンドイッチも155個のケーキも余ってはいましたが、その分、B/S会員と留学生も積極的に旨く交流できていた様で、KAHFのちょっとその先が見えた様な気もしました。いい事ですね。

準備片付け等、男性の方に重労働を強いまして申し訳なかったです。ケーキコーナーや飲み物コーナーも積極的に皆様
が手伝って下さり大助かりでした。今後とも宜しくお願いします。



ライトハイキング 大文字山ハイキング 2014. 5. 18 (日) 13:00 - 15:00

集合場所：今出川通り・白川通り交差点北東角 コース：銀閣寺から大文字火床までの往復

参加者：留学生、ファミリー、B/S会員、計 約45名

雨で延び延びになっていましたが、待った甲斐があり当日は素晴らしい晴天に！

すっかり新緑に変わった桜並木を過ぎ、観光客で賑わう門前道から山道へ。小さな子供連れの家族など、ここでも沢山の登山客とすれ違いました。途中急な登りも何箇所かありましたが、木洩れ日と心地よい風に癒され、最後、153段の石段を登り、目的地（大の字の横棒、標高340メートル）へ。

山の上からは京都市内は勿論、大阪のビル群、アベノハルカスまで見渡す事が出来ました！素晴らしい眺望を楽しんで、全員無事に下山。お疲れ様でした。

今回、B/S会員（約10名）、留学生だけの参加も多く、学生同士の交流が出来たのが新たな収穫でした。



ライトハイキング について

事前の申し込みや予約不要、弁当も不要、日曜日の昼から3、4時間の軽いハイキングです。決められた時刻に集まった人たちで出発します。なお、雨天や不確かな天候の場合中止の連絡などできない場合もありますので集合場所への参集は皆さんのご判断にお任せします。

留学生との交流の機会としてお気軽にご利用ください。ファミリーだけ、留学生だけ、B/Sだけの参加も歓迎です。皆様のお近くによいコースがあれば是非ご提案ください。

今年度は3回実施できました。これからも続けたいと思っています。

夏

ライトハイキング 鞍馬一貴船トレッキング 2014. 6. 1 (日) 13:00 - 17:00

集合場所：叡電出町柳駅 コース：出町柳～鞍馬寺～貴船神社～叡電貴船口～出町柳

参加者：7名（B/S会員3人、留学生4人）

天気に恵まれ、ハイキング気分で叡電鞍馬駅へ。鞍馬寺に入る前にお団子を購入し、途中で食べようとワイワイ向かいましたが、由岐神社が見える頃には早くも疲れが出始め、残念ながらここで1人途中下山と相成りました。その後は本殿前の六芒星のパワーもあって無事貴船に辿り着きました。運良く貴船祭の日でしたので、そのままヤマタノオロチ退治を題材にした出雲神楽を見学し、お参りをした水占おみくじをひき、叡電に揺られて出町柳へ戻りました。思った以上に勾配が急な上にコースも長く大変でしたが、やはり森の中ということで涼しく歩くことが出来ました。



料理教室 2014. 6. 7 (土) 13:00 - 17:00

場所：ウイングス京都 2F 調理室、

レシピ提供：高橋幸子様 (A-2)

参加者 留学生 13人 学生 7人 ファミリー7人の計 27人と、飛び入り参加もあり盛況に終わる事が出来ました。

慎重に作った水無月を冷やした後、親子丼は、各グループでの自由クッキングになりました。

3人分ずつ作る所、1人分ずつの所、どのグループも出来栄は、100点満点。やはりファミリーが参加してくれる事でスムーズに進みました。お抹茶タイムは流石にみんな楽しそうで、旨く出来た水無月に舌鼓を打ち、お抹茶のおかわりをして、みんな楽しそう。終わった後も、お互いにメールの交換をしたりして、交流を深めていた様でした。私自身こんな簡単に水無月が出来ると思わず感激しました。(by H.N.)

レシピをホームページに掲載しました。*KAHFのFBにも沢山写真が載っています。ご覧ください。

<https://www.facebook.com/groups/768500656507707/?fref=ts>



友禅染め体験と二条城観光 2014. 7. 6 (日)

集合場所：地下鉄東西線「二条前駅」2番出口 参加者： 6名
(内留学生 2名)

B/S会員の高橋君の企画で、7月6日(日)に友禅染め体験と二条城観光を行いました。B/S会員のみへの案内で、参加は6名(内留学生2名)でしたが、楽しい行事となりました。地下鉄東西線「二条前駅」出口で集合し、小川通御池南入る京友禅体験工房「丸益西村屋」で思い思いの品に好きな柄を組み合わせる染め体験を楽しみました。その後、軽い食事の後、二条城の観光をする予定でしたが、残念ながら雨が強くなってきたので、次回の楽しみ、ということにしました。



ゆかた着付け教室 2014. 7. 14 (月) 14:00 - 16:30

講師：掛水みさ子様 場所：ウイングス京都：2階和室A

今年の参加者は全員女性で、14名(欠席3名)の申込でした。

昨年に比し半減しましたのは、平日で授業があり、参加困難な学生が多かったためです。その分、余裕を持って着付けできました。来年は曜日も考慮したいとおもっております。紐などはホストファミリーが気配ってくださいましたので、昨年のように不足することはありませんでした。下駄のない子は、サンダル、ミュールを持参するように案内したいと思います。髪をアップにするための小物類も忘れないように周知させたいと考えています。(髪飾りまで準備してきた留学生もいましたが、ほとんどは持参しませんでした。)

祇園祭も先の祭りと後の祭りになりましたし、大文字や下鴨神社の御手洗祭もあります。

それらの行事に合わせて、「着付け教室」の日程を考えて見るのも良いかと思えます。(by M. N)



祇園祭 船鉾参観 2014. 7. 14 (月) 18:00~

集合場所： 船 鉾 下京区新町通仏光寺上ル 参加者：ファミリー5名 留学生22名 B/S会員3名

今年も無事船鉾参観を終える事が出来ました。暑い中お世話いただきました皆様ありがとうございました。平日だったこともあり参加者は例年より少なく30名で少し寂しい結果になりましたが、留学生は色とりどりの浴衣を着こなしてとても素敵でした。(by K. T)



秋

秋のBBQパーティー2014. 11. 24 (月振替休日) 11:00 - 14:30

場 所：龍池財団大原郊外学舎

今年のBBQ, 初めは10/19(日)に予定していましたが、ダブルブッキングのお蔭で延期を余儀なくされ、11/24(月、振替休日)に実施しました。当日は連休の最終日であり、同時に京大の11月祭(学園祭)の最終日、また、近年私大では振替休日に授業がある場合も多いということであり、参加者は例年より少なく、ファミリー24名、留学生22名、B/S会員4名の合計50名でした。しかしながら、よい暖かい天気にも恵まれ、紅葉も美しい大原で、食べ物(焼き肉と野菜カレー)もたっぷり皆さんご満悦でした。食事の後は軽いゲームも楽しみました。一部の方は終了後、大原の秋の散策を楽しまれたとのこと。



冬

新春親睦パーティーとバザー 2015.1.11 (日) 14:00 - 16:00

場所：京都市国際交流会館 イベントホール

KAHF 恒例の新春親睦パーティーが今年も賑やかに開催されました。留学生 49 名、ファミリー約 47 名、B/S 会員 6 名、合計約 102 名の参加がありました。成人式の関係で出席できない学生もいたのは残念でした。

畑さんの司会で進行、谷垣代表の挨拶、乾杯の後、会食に入りました。留学生同士、ファミリー同士、留学生とファミリーなど、賑やかに話が弾みました。特に多くのファミリーに取っては久々の再会の機会でもあり、懐かしさに話が弾んだようです。アトラクションは子供達お楽しみの、お年玉タイム。司会はロジャー奥田さんが活躍。今年は大きな子供達(?)にもプレゼントされました。続いて、ブルガリアの女子学生 2 人が民族ダンスを披露してくれました。賑やかに交流が続く中、残念ながら時間となり、バザーへ移行。お陰様でバザーも成功裏に終了しました。



ライトハイキング 将軍塚ハイキング 2015 年 1 月 18 日 13:00 - 15:30

なかなかお天気に恵まれなかったのですが、今回は皆さんの強いお気持ちで束の間の晴れが勝ち取れました。有難うございました。24 名の参加がありました。ファミリー16 名、B/S1 名、留学生 7 名

祇園石段下を定刻 13 時 15 分に出発し円山公園を東に抜けて安養寺横を山道に取り掛かり、約 40 分で東山山頂公園展望台へ、短い距離でしたがかなりの急坂を老若男女三々五々、おしゃべりを楽しみながら無事登り終えて、京都の市街を一望に収め、今回も遥か大阪のアベノハルカスを望むことができました。楽しい一刻でした。山頂で解散後新たに建立された青龍殿などを見学に行かれる方やそのまま下山



される方もおられました

左端の高い塔はあべのハルカス 写真は留学生 M. P. さん提供

2015年 春

KAHF 30周年凧揚げ大会 2015年3月8日 10:30-12:00

前日が雨で心配したが、この日は快晴で暖かくよい日和であった。参加したのは、HF：5名、B/S：2名、留学生：6名、ゲスト（昔の留学生）：1名、合計15名であった。参加者が少なかったのは、もともと計画していた3月1日から一週間の延期したことと、前日の雨が原因であろう。会場の出町柳”三角州”は開放的で風も強く、自作の凧もよく揚がった。「KAHF 30」と書いた凧などが空中に浮かび、1年遅れのKAHFの30周年のよい祝いになった。

「風を体で感じて童心に戻って凧揚げをするってとても大事ですね。予定より少ない参加でしたが、そんな事はおかまもなく楽しんでしまいました。絶対にバーチャルなんかでは味わえないずっと伝えていきたい日本の伝統的な遊びです。材料が余っていますので、又やりましょう。」



準備万端ご苦労様でした



残念！



乱舞する凧たち、上がり過ぎて、見えるかな？

寄 稿

KAHFに参加して 桑原節雄

私は、KAHFに入会して、いまだ5年弱です。KAHFの歴史 30年と聞いて、その長さに驚きました。30年前と言いますと、まだまだ海外に赴任することが珍しかった時代です。その時代に、海外からの留学生を暖かく迎えようと、この会を作られたのは、大変なことだと思います。7家族の方が発起人となり60家族という多数の会員が集まられたと聞き、更に驚きました。それが営々と今日まで引き継がれてきたのです。オリンピック招致で有名になった「おもてなし」の心の先駆者たちと思います。

我が家の留学生の第一号は、偶然会ったブラジル人でした。彼女とは、沢山の偶然が重なりました。

- 1、退職して何か恩返しをしたいと思ってました。
- 2、昔勤務したブラジルの出身者でした。
- 3、彼女の住んでいた黄檗の寮と同じ場所に、その昔学生寮があり、私はそこに住んでました。

そんな不思議な縁で、彼女は私達のことを日本の父母と呼んでました。

その彼女が帰国して留学生のとの縁も切れそうになったとき、KAHFのことを知りました。そして、ブラジル人だけでなくミャンマー人・タイ人・ベトナム人と受け入れ留学生も広がり、現在は、インド人姉妹・中国人夫妻・韓国人の大家族になりました。大家族になって話題もお国自慢や国の比較論が増えました。私が話に疲れた時は、彼らが仲間同士でしゃべりあってくれますので、楽といえば楽です。大学院では、相当専門的なことをこなしているよう



ですが、我が家に居る時は普通の女の子・男の子といったところです。

私にとって最大の関心は、この子たちが将来どんな大人になるのだろうかということです。しかし結果が見れるのはずいぶん先のことで、残念ながら結果を見ずに終わる公算が強そうです。

私にとってKAHFとは B/S会員 佐竹 悠

みなさんはじめまして、立命館大学三回生の佐竹悠といいます。早いもので、一月ももう終わってしまいますね！私はいまアメリカのインディアナ州にある大学に留学中なのですが、毎週の小目標と毎月の大目標を決めてそれを意識するようにしたら一気に毎日にメリハリができました。2015年も一か月がすぎたこの時期、毎日がマンネリ化してきたらおススメです。

私がKAHFのことを知ったのは去年の春でした。KAHFメンバーだった友達にケーキパーティに連れていってもらったのがきっかけでした。留学生との交流を図る団体は数多くあるけれど、Brother/Sister membershipという名前があらわすように留学生との距離の近さ、個人の交流だけでなく団体としてのイベントの多さなど、KAHFのもつ魅力に惹きつけられました。しかし留学前の準備などでなかなかKAHFに参加することができないまま私自身の留学が始まってしまいました。留学生としてアメリカで生活することを通して、楽しいことだけではなくて留学生の体験する不安やさみしさも身をもって知ることができました。どんなサポートがあったら嬉しいか、必要か、たんにホスト側として日本にいた時には気付かなかったことも学ぶことができました。帰国後は4回生になるので期間的には短いかもしれませんが、B/Sが日本の学生と留学生どちらにとっても良いコミュニティになるように活動に参加していきたいと思っています。早く皆さんと一緒に活動したいです！

私がB/S会員になるまで B/S会員 竹口 美久

はじめまして。B/S会員の竹口美久です。ニュースレターにB/Sの声を載せて頂く初めての機会ですので、ひとつの例として、私がB/S会員に登録した経緯を紹介したいと思います。

私は、2011年から2013年にかけての1年7ヶ月間、タイの大学に研究員として在籍しました。研究員とは言っても、渡航当初の私のタイ語は幼稚園児レベル、何をするにもタイ人の先生や友人たちの助けが必要でした。アパートの契約もできない、バスにも乗れない、屋台でご飯を注文出来るようになるまで随分と時間がかかりました（タイの屋台の多くはオーダーメイド料理を提供しています）。それまで、どんなところに行ってもやっていけるという自負がありましたが、実際に暮らしてみるというのは想像とは全く違うものです。些細なことが伝えられずストレスを感じたり、落ち込んだり、心細くなりなったりした時にそばに居てくれた友人たちが、たとえ言葉がスムーズに通じずとも、とても大きな力になりました。

帰国後、直接タイの友人たちの力になることは難しくとも、日本に来る留学生たちが気軽に連絡できる対象になることは出来るだろうと思い、友人の紹介でKAHFに登録しました。留学生とB/S会員の1対1のお付き合いに加え、B/S会員同士やホストファミリーのみなさんとのつながりが出来るという点が、他にはないKAHFの特色であると考えています。様々な年代の、其々に異なる背景や経験を有した方々とのお付き合いそのものが、B/S会員にとっても得難い経験になると信じています。今後みなさんのお力添えを頂きながら、この新しい取り組みを発展させていけたらと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



ダム湖に沈む夕日と世界で二番目に長い木造橋(タイ・カンチャナブリー県)

1. KAFH の B/S に参加した理由

私は大学院で、環境問題の解決に貢献したいと考え研究を行っています。研究を通じ、理化学的な研究だけでは環境問題は解決出来ないことに気付きました。なぜなら、環境問題を議論する上で国際的な政治・経済・文化など、さまざまな知識が不可欠だからです。そこで、留学生の方々と交流することで国際的な感覚、価値観を知るとともに教養を身につけたいと考えました。さらに、日本に来て困っていたり、不安であったりする留学生の方々の心の支えになりたいと思い KAFH の B/S に参加を決めました。

2. 交流のなかで学んだこと

留学生の方との交流で学んだこととして2点あります。

1点目は日本で当たり前だと思っていた既存のシステムについても、より効率化できるのではと疑問を持てるようになりました。例えば、「教育」について韓国では IT を積極的に利用し教師同士の情報交換の効率化に成功しているということを知りました。海外でのシステムや技術を知ること、従来の日本の方式をより良いものに出るのではないかと疑問を持ち探求する姿勢を持つことが出来たのではないかと感じております。

2点目は、日本についてより理解したいと思うようになりました。日本の歴史や文化について留学生の方は、興味津々でたくさんの質問をされます。留学生の方の質問に答えるために、日本の歴史や文化を見つめ直すきっかけとなりました。

3. 今後の活動の問題点と展望

KAFH の B/S システム自体は、2013 年から始まった若い制度です。

B/S では、担当する留学生を決めることで、1 : 1 の姉妹のような親密な関係を築くことを目指しています。一方で、留学生と日本人学生のマッチングが上手くいかないという例もあります。今後、KAFH の B/S が機能していくには 1 : 1 の個人間での繋がりを大切にしつつ、自身の交流について情報交換する場が必要なのではないかと考えました。そこで、日本人の B/S 会員で月に 1 回程度、食事をしながら交流をする機会を設けることにしました。これらの交流を通じて、学生が主体となり、留学生との交流をより活発なものにしていければと考えております。



元留学生からのメッセージ

リーナ 清水さん (ブラジル出身、京大経済学部卒)

Hello. I was asked by my host mother to write something about my experience in Japan. I first asked myself: "where should I begin with?". It's so hard to express as I realized I never had the opportunity to put into words all the emotions, experiences and learning's of my life in Japan.

I recall I applied for a "host mother" at my university's foreign students' office. Because I am a "Japanese nisei" – yes my parents are Japanese – I wondered if they would find me anyone to be my "mother". No matter that, I decided to look for her.

For my surprise, Fukui-san "adopted" me.

I first met "Hisako okaasan" in Kyoto. A joyful young and caring lady who was introduced to me at the KAHF meeting. She was adorable. I promptly liked her as she introduced me to the whole family.

It happened that suddenly I not only had someone to call "okaasan" in Japan, but also "otoosan" and two

younger brothers! I had always dreamed of having younger siblings! I recall playing ping-pong at her house. Dinner table just turned into a ping-pong table. Imagine the fuss! I felt like home, away from home.

It is interesting to say, after almost 25 years how much she and her family meant to me.

I was away from home, half the planet away, for the first time in my life. Away from everyone I knew. In a land I knew no one but my foreign student friends at the dorm.

One weekend, okaasan took me to Byodoin in Uji. What an amazing temple! (I confess until then, as a student and obviously counted resources, I had never entered a “paid” temple).

She taught me about the temple, which is printed on ten yen coins, one of the oldest standing temples in Japan. She taught me how it was built without a single nail. It was totally built on embedded wood. It was built in wood with perfect fit that survived numerous earthquakes and yet stood still. I was mesmerized. I recall she knew everything about it and taught me with shining eyes.

She taught me Byodoin was home for the sects of Jodo-shu and Tendai-shu. (I also confess that I checked onto the internet now, as I couldn't recall the names of the sects, but I confirm she knew everything!). I could tell she was proud to show me the history of Uji and she made me intrigued with the beauty of that story. Beautiful place, incredible history, wonderful “guide”.

Who was she? Why did she take me to a temple? Why was she so nice?

She was my “guide”. She was a person who stood by my side to teach me about Japan. She taught me about manners, and most importantly about how to relate to others... and never expected anything in return.

She is a generous hearted person who stood by my side teaching how to love Japan and all what surrounded me. One cannot imagine how much her guidance allowed my inner growth. She kept being my Japanese Okaasan even after my graduation and return to Brazil as every time I visit Japan, she is always there, treating me with nice luncheons and wonderful updates. A family away from my homeland. Definitely a family that is part of my life for the whole time.

So much I miss her and the whole family. One can only know the importance of this kind of relationship if only she or he experiences this same journey which I wished everyone had the chance to experience.

Jan 30th. 2015

概略とファミリーコメント

『25年ほど前にKAHFの行事でお母さんに紹介されました。宇治の家で、2人の“弟”達とテーブルでピンポンをした時とても楽しくて、地球の反対側から来て、知人もあまりいない中、日本にも家族が出来たようで嬉しかった。平等院で古い歴史を知り、釘を使わない木造建築が地震などに長年耐えて来た事に感動。お父さん、お母さんとの交流で日本での生活の仕方を学ぶことができ良かった。卒業後も、日本に来る度に暖かく迎えてくれる“家族”です。』

若くして家族から遠く離れた学生にとって、KAHFは必要な存在だと再認識しました。彼女はその後仏でMBAを取得し、現在はブラジルの金融機関で活躍中。忙しい日々ですが、時には世界中にいる学生時代の友人達と国際的な同窓会を楽しんでいるようです。 (H.F) 以上

